

訳書『文化地理学の再構築』をめぐる問題点

林, 勝一 / NAKAMATA, Hitoshi / HAYASHI, Katsuichi / 中俣,
均

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

35

(開始ページ / Start Page)

49

(終了ページ / End Page)

61

(発行年 / Year)

2003-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00025914>

訳書『文化地理学の再構築』をめぐる問題点

林 勝一 中俣 均

P. Jackson の著書『Maps of Meaning』(Unwin Hyman Ltd.) は 1989 年に刊行され、いわゆる New cultural Geography の初めての「まとまった教科書」として注目を浴びた。その邦訳が 1999 年に『文化地理学の再構築——意味の地図を描く——』(玉川大学出版部)として刊行されたが、同邦訳書には翻訳上の誤りがありにも数多く見られる。本稿は、同訳書の誤訳と思われる箇所をできるだけ具体的に示し、同書のより広範な、正しい理解に資することを目的としている。

キーワード：カルチュラル・スタディーズ、『文化地理学の再構築』、新しい文化地理学、P. ジャクソン
Key words: cultural studies, 『Maps of meaning』, new cultural geography, P. Jackson.

I はじめに

本稿は、以下に示すように P. ジャクソン著、徳久球雄／吉富亨訳(1999)：『文化地理学の再構築——意味の地図を描く——』(玉川大学出版部)についてのある種の書評である。しかし、主眼はその翻訳についての批判にあり、誤訳部分の指摘とそれに替わるべき訳の提示にある。この意味で、通常の書評とはだいぶ趣が異なる。

さて、ある学問分野がその裾野を広げ世間に対して存在をアピールするためには、当該分野の「古典」とも称すべき書物の存在が欠かせない。わが国においては、それが西欧起源の学問分野であるなら、それらの「古典」が自国語で読めることが必要であろう。現実には、哲学や政治学や経済学などをはじめ、多くの学問分野にそうした「古典」の翻訳書が少なからず存在している。この意味でわが国の地理学は、このような面では他分野に比べると著しく遅れをとってきたといわざるをえない。近代地理学の始祖といわれるフンボルトやリッターの著作でさえ、一部が抄訳の形で読めるだけというのが実情だからである¹⁾。

もっとも「古典」は最初から「古典」であるわけでもない。刊行から日が浅くても、その分野で注目すべき著書であれば、それが直ちに「古典」と化す場合もある。ここで取り上げるジャクソン

の著書など、まさにそうした新しい「古典」の典型であり、いわゆる「新しい文化地理学」のまとまった提唱として、そしてカルチュラル・スタディーズへの地理学的入門書として、別記するようにさまざまな学術誌で書評がなされた記念碑的書物である²⁾。そのような書物が、原著刊行後わずか(!)10年の後に邦訳されたのはまことに喜ばしい、日本の地理学界においてはあまり前例のない快挙であった。

しかし、である。企画自体には諸手を上げて賛意を表したいのだが、翻訳の中身についてはほとんど読むに堪えない代物だった。筆者(中俣)は、本訳書刊行後直ちに、翌2000年度の筆者が担当する法政大学大学院の演習でこれをテキストとして取り上げ、原著 Maps of meaning (Unwin Hyman Ltd.) の初版と対照しながら参加者とともに講読し議論したが、それはさながら誤訳の指摘会に終始したというのが実情であった。ちょうど「人文地理」誌上の「学界展望」欄で、松本博之が「(本書は)…難点が多い。…訳者たちは主だったところでもコンテキスト論、構造化理論、劇場国家論、間主観性、実践感覚などの素養を欠きすぎている恨みがある。人文・社会諸科学と共通の土俵を形づくるための入門書であり、他の分野の学徒たちも参考にする文献であろうから、「地理学者」としての責任感を自覚してほしかった」³⁾という異例に厳しい評価を下しているの

と、同時期に同じ思いを持ったのである。

このような評価が下されたためであろうか、「人文地理」誌において言及がなされた後、他の人文地理関係の諸学会誌に同書の書評が載ることは管見の限りではあまりなかった⁴⁾。しかし、せっかくの訳者らの努力をこのままで放っておくことも、「地理学者」としての責任感」に鑑みれば抵抗がある。たとえ翻訳上の問題点が多いとしても、「……目下のところ、教科書としては原著に頼るほうがよい。」⁵⁾と澄ましているのもいささかはばかられる。そこで、これまた全く異例のことではあるが、われわれの議論を通して判明した訳書の誤りと考えられる箇所を具体的に指摘・提示し、原著の正しい理解にいくらかでも資することができればと、余計なお世話を買って出たのである。

いささか前置きが長くなってしまったが、以下にわれわれの作成した「訂正表」を示し、合わせて本訳書へのいくらかのコメントを付加したいと思う。なお、上記したようにこの「訂正表」はわれわれの演習で議論した成果であり、その内容を演習参加者の一人である林が整理し、前後のコメントを中俣がつけるという形でできあがったものである。

Ⅱ 訂正箇所と訂正例

第1表に、訂正すべきと考えられた箇所と代替案を対照させたものを示す。

代替案を提示しなかった箇所は、これで全てというわけではない。スペースの都合上、当該箇所をあまり具体的に示せなかったところも数多い。次項でも触れる人名表記の問題などは、ごく限られたものだけをリストアップした。単純な誤植については、これも多数あるうちのごくわずかなだけ指摘し、訳書を読者が普通に読めばすぐにそれとわかるような箇所は除いた。

Ⅲ 翻訳上の問題点について

上記「訂正表」の作成を通じて得られた知見と

して指摘できる事柄を簡単に整理しておきたい。無用の業でもであろうが、後発の翻訳者にとってのある種の教訓として生かせればと思うからである。

訳語の不適當さは、率直に言って翻訳者のうちの地理学者の不勉強さを如実に示していると言わざるをえない。それらの中には、ほとんど慣用化されている術語に関するもの（例えば、人文主義地理学←人文地理学（前者が訂正例。以下も同様）、アーバニズム←都市、観念論←理想論、ジェントリフィケーション←中流化あるいは中流階級、構造化理論←相互関係理論、カルチュラル・スタディーズ←文化研究、オリエンタリズム←オリエント学などなど）や、これもほとんど慣用的な表記が定まっている人名（サウアー←ソウアー、L. H. モーガン←ルイス・ヘンリー、パフチン←バクチンなど）が含まれる。「Antipode」という雑誌名を理解していない様子なのも同様である。しかも、こうした術語は本書のキーワードでもあるから、頻出するのである。「文化人文地理学」(p. 37) といった珍訳も少なからず見かけられる。こうした点は、少しでも事情を知る読者には、翻訳の質を根本的に疑わせることになる。

このような翻訳上の問題点は、訳者に最終的責任が帰するのは当然としても、編集作業がもっと念入りになされていたら防げたであろうと考えられることがらも少なくない。第一に、原著にある著者ジャクソン自身の「まえがき」(Preface) がなぜ訳出されていないのかが不明である。ここにはジャクソンの本書についての基本的な前提あるいは態度、すなわち、文化をエリートのものとしてとらえずに支配と服従とが交錯する社会関係の現出する場におけるせめぎ合いと考えること、そうした立場は R. ウィリアムズの「文化唯物論」に依拠するものであることなどが、要領よく述べられている。訳書冒頭の、D. グレゴリーによる「序言」を訳出しているのに、より重要な意味のある「まえがき」を省略した意図がわからない。第二に、原著に収められている全 31 葉の図版のうち、訳書には 17 葉しか掲載されていないことである。しかも、31 葉のうちの 17 葉がどのよう

文化地理学の再構築

第1表 訂正表

※訳文の脱落箇所、改行すべき箇所、削除箇所などは【 】で示す。その他コメント及び原文を備考欄に示すが、原文はスペースの都合上、必要に応じて記すこととする。
※表中の太字は節の見出しを示す。

頁	行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
序言 Forward				
1	1	人文科学・社会科学の全分野を通して最もすばらしい発展をとげてきた分野で、場所・空間・景観についての概念がその中心になってきたのである。	場所、空間、景観といった概念(群)が、人文・社会科学全ての分野でめざましい発展を見せてきている。	
	4	経済学者や政治学者は、	経済学者や社会学者は、	sociologists【訳文抜け】
	4	現実空間にないような政治・経済のモデル	現実空間にないような経済や社会のモデル	
	5	資本主義の発達のためつき	資本主義の(地域的に)不均衡な発展	
	8	地域の情報	ローカル・ノレッジ	local knowledge (C.ギアーツ『ローカル・ノレッジ』梶原他訳、岩波書店、1999参照)
序論 意味の地図 Introduction : maps of meaning				
11	1	意味の地図	意味の地図を描く	序論タイトル Introduction : maps of meaning
	2	社会地理学・文化理論	社会地理学や文化理論	
	4	統計的に地図化する	静態的に地図化する	static
	7	文化研究	カルチュラル・スタディーズ	cultural studies
	7	から誘発された	に触発された	
	10	理論的に発表されている文化地理学の項目	理論的に洗練された文化地理学の課題	
	10	このような新しい方向付けには、…ますます一点に集中していく状況が含まれている。	このような再吟味には、…収束の度を増していく状況が見られる。	
12	1	文化が政治的・経済的決定要因であると単純化するわけではない。	文化的な決定要因が政治的・経済的なそれに還元されるというわけではない。	
	6	むしろ文化とは政治的なものだという点	むしろ文化的であることは、政治的であることだという点	
	7	文化研究	カルチュラル・スタディーズ	cultural studies
	7	このような専門分野相互の研究・発展を	そうした学際的な学問分野の発展の歴史を	
	9	文化研究入門	カルチュラル・スタディーズ入門	An introduction to cultural studies
	10	大衆(労働者階級)文化の疲れを知らぬ大家	精力的な大衆(労働者階級)文化研究の大家	
	15	民族学	民族誌	ethnography
	17	文化の基本的な定義	作業仮説としての文化	a working definition
	14	文化研究	カルチュラル・スタディーズ	cultural studies
	16	文化の複数性	文化の多元性	plurality
14	2	再構築されている	再構築されるべき	
	5	構造主義理論	構造化理論	structuration theory
	5	現実主義哲学	実証主義(的)科学哲学	realist philosophy of science
	6	時間・地理学	時間地理学	time-geography
	7	経済社会地理学	経済地理学や社会地理学	
	7	専門家に委せて	専門家だけに委せて	
15	2	文化政治力学と文化のもつ政治的局面	文化政治学と文化のポリティクス	Cultural Politics and the politics of culture
	5	ストレート	非ゲイ	
	15	かつてないほど顕著に…反映している。	地方や都市や地域の文化が、変わりゆく社会地理を反映しながら、かつてなかったほどに顕著になっていることを示している。	
	16	資本の蓄積、集中	資本の集積(Peet,1988)	
	18	「文化の相違性」	「異なることの文化」	'cultures of difference'
16	2	文化の政治力学を論じる場合、文化の持つ政治的局面を無視できない。	文化政治学を論ずる場合、文化のポリティクスを無視することはできない。	
	7	全国的な経済下降	国家経済の衰退	
	9	現代の全国的な文化	現代の国民文化	
	11	一般的な方向と特殊な方向へと向かう傾向	均質化傾向と特殊化傾向	

頁	行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
16	19	パーソナル・ステレオ	ウォークマン(パーソナル・ステレオ)	
18	5	現在の文化研究に再活性化が起こっているのと、イギリス文化の多様性がさまざまな面において、ますます不寛容になっていく政府に脅かされているのが時期を同じくしているのは何も偶然ではない。	現在のカルチュラル・スタディーズの再活性化が、まさにイギリスの文化的多様性が不寛容さと権威主義の傾向を増している政府の脅威にさらされている状況下で起こっていることは、決して偶然の一致ではない。	
	15	ジェシー・ジャクソン	J.ジャクソン牧師	
	15	項目	課題	agenda
19	5	と比較できる。	と同じ方向性を示すものである。	
	4	人文地理学の文化研究	人文地理学における	
1章 文化地理学の遺産 The heritage of cultural geography				
21	3	文化を具体的に・・・限定されている。	文化が具体的に表現されているその見方は、必要以上に限定的なものになっている。	
	6	現在の地理学	現在の文化地理学	
	7	特に北米における地理学	特に北米における文化地理学	
	7	それ	北米の文化地理学	
	8	カール・ソウアー	カール・サウアー	以下類例
	14	パークレー学派の仲間の研究	その同志であるパークレー学派	
22	1	パークレー学派とその遺産		The Berkeley School and its Legacy
	9	叙述のなかに・・・制限されている。	除外したもの、取り入れたもの、過度に抑制的である。	
	12	パークレー学派の長	パークレー校の地理学科長	次行も同様
	16	それが最初に手をつけた実地調査であり、かつまた	ファーストハンドの野外調査体験と	
23	12	「文化の景観」(後述)にも述べてるように、	「文化景観」(後述)として表現される、	‘cultural landscape’
	13	文化の物質的な面にのみ焦点を合わせ、それ	文化の物質的な側面と、その景観における表	
	15	地理学の一般的な性質について語った。	地理学の専門化されにくい性質について語った。	
	16	博物学とか文化史の講座	自然史と文化史のコース	
24	5	彼は地理学から	彼はアカデミズムの地理学から	
	11	(Ritter, Humboldt, Ratzel, and Hahn)	(リッター、フンボルト、ラッツェル、ハーンの古典	
	18	地質学的な資料はこの研究には殆ど役に立たなかった。	そういった探求に、彼が地質学の出自であることは、ほとんど役に立たなかった。	
25	3	文化的景観	文化景観	The cultural landscape(以下同様)
	8	「地理学の単一概念」	「地理学の単位概念」	‘the unit concept of geography’
26	1,2	物理的環境・・・物理的景観	自然環境・・・自然景観	
	6,7	行為	営為	agent(以下類例)
27	1	文化史と人間行為	文化史と人間の営為	Culture history and human agency
	12	地形学	形態学	morphology
	18	歴史と人間	歴史学と人文諸学よりむしろ	
29	1	文化人文地理学ーボアズ、ローウィー、クローバー		Cultural anthropology :Boas, Lowie and Kroeber
	19	文化の博物学	文化の自然史	natural history of culture
	19	恐らくクローバーの・・・強調したことである。	恐らくクローバーの思想の基軸である二つの要素とは、第一に・・・	characterizationとclassification が原文ではイタリック
31	2	景観について直接に叙述する場合を除けば、	それについての議論が、直接に景観のなかに表現されている場合以外は、	
	4	全面的に	【×削除】	
	6	文化への超有機的研究手法		The super-organic approach to culture
	7	に従えば	に従って	
	11	慣習	制度	institution
32	5	文化自体にある勢いに対応しているのである	文化自体に内在する運動量によって、生成されるのである	
	15	社会文化地理学と収斂させていくには	社会地理学と文化地理学の収斂のためには	
	19	人為結果としての文化	人工物としての文化	

文化地理学の再構築

頁 行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
33 2	文化傾向の地理的配分	文化特性の地理的分布	以下類例
3	読みすぎず	読みとる	
10	『文化地理学講読』	『文化地理学読本』	
34 5	「農業の起源と拡散」	「農業(耕)の起源と伝播」	
12	文化地理学と新しいヒューマニズム		Cultural geography and the new humanism
35 2,5	人文地理学	人文主義地理学	humanistic geography
35 6,7	文化歴史地理学	文化地理学や歴史地理学	
9	景観、自然についての…意識それ自体	景観、自然観、人間の自意識	
36 2	モバイル・ホーム	移動式住居	
5	文体	論文の質	
37 11	文化人文地理学	文化地理学や人文主義地理学	
12	(原文ママ)	【×削除】	
14	社会的満足感	社会的階層化	
15	人文地理学	人文主義地理学	humanistic geography
38 1	結び		Conclusion
9	…始めている。このように…	…始めている。【ここで改行】このように…	
14	検証していく文献は、景観とか環境の研究を、これらの用語が今まで慣習的に定義されていた範囲内に限定はしない。	検証していく文献は、景観や環境を研究したもののみに限られることはない。何故ならそうした用語は、伝統的に(因習的に)定義されているからである。	
18	文化の傾向	文化特性	
39 3	今や文化の意味…用法なのだ。	文化の定義は今や異議を申し立てられている用語なのであり、その用語の意味が論争の対象となっているのである。	
2章 さまざまな問題と代替案 Problems and alternatives			
40 2	批判を超越した文化概念	批判力のない文化概念	
4	分析のなかの	分析から漏れ落ちた	
16	閉じられた本	完成された体系	
41 6	文化研究と一九世紀の人類学		The study of culture and 19th-century anthropology
18	専門の一体感を与えている	他に類を見ない専門的性格を付与するためである	
42 1	【冒頭訳文抜け】	タイラーはさまざまなやり方でこの学問(人類学)の発展を具現化した。	訳文抜け
2	理論化	神学者	theologians
5	タイラーは…設定した。	タイラーは、'原始人'の信仰や行動を'ヴィクトリア時代風の'合理的な'科学(的)人間'(の概念)にとっても理解可能なものとすることによって、より奇妙ではないものにするを、目標として設定した。	
9	「再生」	「残存」	
12	ルイス・ヘンリー	ルイス・ヘンリー・モーガン(モルガン)	
16	先祖である	自分たちの先祖である	
43 3	文化主義のかかえる問題		The problem of culturalism with respect to ~
7	文化に敬意を払いつつ	文化に関連させて	
11	貧困を引き合いに出すよりも(以下抜けあり)	…出したり、非登録労働者という政治的に不確実な身分に言及したり、	
44 16	「暴力に対して平然とした態度をとる」	「暴力に対して禁欲的な態度をとる」	stoic
45 8	文化主義と都市		Culturalism and the City
15	都市	アーバニズム	urbanism
15	産業化、つまり市場経済の出現と近代社会合理化のプロセス	産業化、市場経済の出現そして近代社会合理化のプロセス	
17	物質世界の基礎から	物質世界を基礎とし、そこから	
46 2	『社会正義と都市』	『都市と社会的不平等』	邦訳(竹内・松本訳, 日本ブリタニカ, 1980.)
3	都市	アーバニズム	urbanism
10	さまざまな文化にわたる	通文化的な	cross-cultural
46 14	文化主義と貧困		Culturalism and poverty
47 3	専門家	専門家	

頁	行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
48	19	家庭	家族	family
49	4	全国的に行動を起こすことを要求している	国の対処を求めている	
50	8	挑戦するためには	挑戦することには	
	12	比較的な自律性	相対的な自律性	relative autonomy
	15	文化唯物論		Cultural materialism
	16	文化研究	カルチュラル・スタディーズ	
51	19	批評家	何人かの研究者	
52	10	条件を決定する	決定条件	L.16では正しくなっている。
	11	とすると、・・・理解できる。	すなわち、変化ということが、説明可能な状況のありようや組合せなどによって理解しうる、ということになる。	
	12		こうした決定という概念	
	13	『政治経済批判』	『経済学批判』	
	16	解釈	翻訳	translation
53	10	文化と社会		Culture and society
	13	社会・歴史の状況	社会的状況や歴史的状況	
	17	(「生活全般」)	(「全体的生活様式」)	(‘a whole way of life’)
54	4	理想論	観念論	idealism
54	6	【冒頭訳文抜け】	実際にウィリアムズの文化唯物論の中心となるのは、あらゆる数の文化の形式は、特殊な生産過程の体系であるとする考え方なのであった。	訳文抜け
	6	「文化の発生」	「文化的生産」	‘cultural production’
55	4	社会主義政治学	社会主義的政治思想	
56	3	世代的なものである。	世代的なものとされるのである。	
	4	文化は政治・経済と同じく、美学から倫理までも含む	文化とは、経済や政治のみならず美学や倫理までも含む	
57	1	優等生的な資料	分析対象が“エリート文学”ばかりであること	
	4	ウィリアムズ研究が	ウィリアムズの仕事が	
	6	強く現れている点	強味	
	14	農地の	農業の	agrarian
58	2	思想	イデオロギー	
	2	それは過去・体験と同じように現在・未来について	それは過去・現在・未来にわたる経験と	
	18	基本的な比較法	基本的な方法である比較法	
59	図1	図1 貧者のための住居比較	図1 ‘貧者のための住居’の比較	
62	1	唯物論文化地理学とは		A materialist cultural geography ?
	5	直接遠近法の・・・	【改行】直接遠近法の・・・	ここで改行
	8	風景研究	景観研究	
63	5,8	風景	景観	landscape(「風景」/「景観」:訳語が不統一)
	20	人文地理学者	人文主義地理学者	
64	1	(グラムシから)「政治的支配権」	(グラムシから)「ヘゲモニー」	‘hegemony’(from Gramsci)
	4	ダニエル・マーチン	「ダニエル・マーチン」(一九七七年)	小説の題名
	4	現実の体験	生きられた体験	‘lived experience’
	8	結び		Conclusion
	9	文化論的	文化主義(者)的	‘culturalist’
	10	文化論者手法	文化主義者のアプローチ	
3章 文化とイデオロギー Culture and ideology				
65	1,5,7	思想や信念	理念や信仰	
	11	「政治」の	「政治」による	
66	3	一つの	【×削除】	
	16	同時的な社会的空間的プロセス	社会的であると同時に空間的でもあるプロセス	
67	1	イデオロギーの概念		The concept of ideology
	11	想像力の	想像の	imagination
68	7	社会現実の歴史産物	社会的現実の歴史的産物	
	9	労働という分野	分業	division of labor
68	9	現実のレベル	実践のレベル	
69	4	国家の役割を市民社会についての	国家と市民社会の役割についての	

文化地理学の再構築

頁	行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
69	5	文化の産物, エリート…提供している。	その関連性こそが, 文化的生産, エリート文化と大衆文化の関係, …基本線を提供するものだとしている。	
	11	マルクス主義批判の…あるだろう。	マルクス主義科学が提供する真実の知識とは, 少なくとも含意のうえでは対照的な, 幻想的信仰や誤った思想, 誤った意識のことを, 否定的に指す場合もある。	
	15	「現実社会」がイデオロギー…場合に	「社会実践上の」意味が, 理論上の意味を上回っているという事実(がある場合)において,	
70	13	ジョン・ウリィ	ジョン・アーリ	
	14	主張	言説(または言明)	
	17	社会現実を客観化する	社会的現実を「外面化」する	
71	9	「赤線引き」	都市計画上の用途地域指定	
	12	人種差別の固定観念が	人種についての固定観念が	
	15	つまり, 「公共の福祉」とか…	完全なコンセンサスが得られない場合に, 「公共の良識」や「誰もが同意する」思想に訴えかけること。例えば共産主義者は反アメリカ的であるとか, イギリス人は外国人には寛容的だが, しかし移民が「押し寄せる」のには反対するとか。	
72	5	社会現実	社会的実践	
	6	その	それが示す	
72	6	イデオロギーは社会状況の…部分的なものである。	イデオロギーは, その用語の2つの意味(偏向したと同時に不完全な)において部分的な社会的な状況と, 文脈から切り離れた読み方で読みとることを要求する。	
73	1	ヘゲモニー(政治的支配権)と力		Hegemony and power
	17	というのではないにしても	かあるいはまた	
	17	その次に	逆に	
	18	断罪し	断罪し(第四章参照)	
74	4	特に…傾向,	少なくとも, その好ましさからざる機能主義者のやり方で, 文化を具象化する傾向に対しては	
	7	「文化」の力	「文化の力」	
	10	定義し	定義するよりも	
	12	…翻訳しようとするかわりに	…に翻訳しようとして	
	13	歴史地図	歴史地理学	
	14	ここで	ピリンジによれば	
	14	社会の持つ力	社会的権力	
	15	資本家と土地所有者	資本と土地所有者	
	16	下の階層に対して権力を	より劣勢な社会集団を	
75	4	代表されている	代表されるとしている	
	図3	黒人女性	黒人／女性	図3中
	6	妥協	協議	negotiation
	16	【改行】しかしまた,	しかしまた,	原文は改行なし
77	1	都市の変化における文化と資本		Culture and capital in urban change
	2	中流階級化	ジェントリフィケーション	gentrification(類例多数)
	5	中流化	ジェントリフィケーション	gentrification
	5	転置	強制退去	displacement
	8	ありふれた	共通した	common
	10	人口統計的環境論	人口学的・生態学的環境論	
	12	「環境の継承」	「生態学的遷移」	ecological succession
	15	好みと直観	選好と志向	
	18	きた事実	きたという事実	
78	4	カバーストーリーを出した	特集記事を載せた	
	5	中流化	ジェントリフィケーション	gentrification (類例多数)
	10	隠している	隠してしまっているのである	
	12	広範な文化運動の中に	より広範な文化的変動の中に	
79	16	革新	更新	P.77 L.6の訳語と統一
88	12	民衆のなかの魔性と倫理パニック		Folk devils and moral panics
90	12	「直接民主主義」	「参加型の民主主義」	
	19	移籍される	移籍する	

頁 行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
92 8	縄張り争い		Territorial struggles
93 5	「人種の継承」	「人種の遷移」	
11	自給自足的に	自己完結的に	
17	衝突場面を表現する様子を彼は描いている。	衝突の場面を、コーエンは描いている。	
97 4	大家族	拡大家族	extended family
6	もっている。	持ち続けてきた。	
4章 民衆文化と階級の政治力学 Popular culture and politics of class			
101 3	しかし最終的には・・・収穫がある。	しかし結局、民衆文化研究とは、・・・	
5	「民衆文化」の意味		The meaning of 'popular culture'
7	形容詞で	形容詞をつけた	
102 10	・・・ものであった。【訳文抜け】T・S・エリオット...	・・・ものであった。アーノルドによれば、イギリスは文化か、さもなくばアナキー（無政府状態）かという単純な選択に直面していたのである（アーノルド, 1869）。T・S・エリオット・・・	訳文抜け
103 5	「正式文化」	「公式文化」	official culture
12	支えられている	確認されている	
13	何でもありの分布図	さまざまな分布図	
15	地理学	文化地理学	
105 1	前産業時代イギリスの民衆文化		Popular culture in pre-industrial Britain
2	現代の民衆文化が多方面にわたって	現代の民衆文化の多くの側面が	
5	毎年の休日	年次休暇	
12	「社会の規律」	「社会の規制」	social control (P.108 L.5にも同語あり)
16	教育	文字文化	literacy
17	謝肉祭のような多くの民衆娯楽の形態は	多くの民衆娯楽は、例えばカーニバルのように	
108 16	「歴史に対する民衆の発作的な見解」	「民衆史に対する発作的な見方」	
18	社会生活が過密化し、同質化してきたためである。	都市生活が、過密化し、異質化してきたためである。	
109 1	局面で	局面として	
110 12	卑俗さのない娯楽—ミュージックホールの闘い		Fun without vulgarity: the battle of the music halls
111 5	官庁の事務官	事務員・サラリーマン	the clerk
9	「ふしだらな集い」(町人や名士たち)によって	「ふしだらな仲間たち」(いかがわしい連中)と交わることによって	
11	社会的差別	社会的分裂	social segregation (同頁にsegregationを「差別」とする訳が多数)
13	政治学者たちは・・・同じように	政治の観察者たちは、1840年代にマンチェスターを訪れたエンゲルスと同じように	
17	単に差別の増大という観点から	単に分裂の増大という観点から	segregation
114 20	「である。」【このあと訳文抜け】	観衆は、上演の真っ最中であっても、飲酒・喫煙・食事・おしゃべりが自由にできた。	訳文抜け
16	さまざまな劇場の区分に	劇場内のいろいろな場所に	
12	貧困、階級間の争い、それに道徳の墮落	アルコール依存、貧困、階級間の争い、それに道徳の墮落	訳文抜け
118 5	一般大衆の取り締まり		Policing the public
11	地理的区分	地理的セグレーション	geographical segregation
119 16	現代解釈	当今の説明	
121 4	邪悪の種も彼らと共にもち去られるであろう。	(その人々は)邪悪の種をも共に運び広げることになるであろう。	
122 1	それと協同して農場と小さな菜園	それに、協同(組合)農場と小さな菜園	
15	六六年	六六年の各時期	
128 4	街は象徴的に・・・ものであった。	街は象徴的に家庭と対立するものだった。前者は卑俗的、後者は神聖的な世界だった。	
5章 ジェンダー(社会的性差)と性意識 Gender and sexuality			
131 15	「女性地理」	「女性の地理」	'geography of women'

文化地理学の再構築

頁	行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
132	2	判然とした区分のある	明瞭な	distinctive
	5	「・・・Study Group【訳文抜け】」	「・・・Study Groupなどの研究展望を参照のこと」	訳文抜け
	5	研究法による	研究法に関する	
133	1	フェミニスト理論と文化地理	フェミニスト理論と文化地理学	Feminist theory and cultural geography
	2	それに引き続いた反論	それに続く「Antipode」誌上での論争	・・・and the subsequent debate in <i>Antipode</i>
	3	この理論がなければ、家父長制の性格を批判的に検証することとどまり、	このような、家父長制の本質の批判的検証に根ざした理論がなければ、	
	12	性行動の規制	性(セクシャリティ)にもとづく規制	
	14	性関係	性(セクシャリティ)	
134	6	領土	領域が	
	6	社会的に形成・・・プロセスである。	ジェンダー関係は社会的に形成されたものだとする考え方に変わっていったのは、歴史的なプロセスなのであった。	
	12	性	性別	
135	2	性問題には	性関係には	
	15	いく方法	きた経緯	
	16	隠されている	隠されてきた	
136	2	第二部	後半	
	14	経済的搾取という文化次元	経済開発の文化的次元	
141	7	女性の仕事とは		Women's work?
142	13	ジェンダーによる労働区分にとって、技術の社会的定義とその意味を追求している。	技術の社会的定義と、ジェンダーによる分業にとって技術が持つ意味とを追求している。	
143	3	「・・・である。」「【このあと訳文抜け】」	性による技術的な職務区分は、明らかに経済的次元と、文化的次元とを含んでいるのである。	訳文抜け
	5	には、どのような地理的影響があるのだろうか。	のもつ地理(学)的効果とは、どのようなものだろうか。	
	13	組合組織という型に発展していった。	組合組織という型によって、促進されていく。	
144	5	女性抑圧の根拠となっている資本主義の妥当性を・・・	女性抑圧の根拠として資本主義を持ち出すことの妥当性を・・・	
	14	雇用形態も低く	雇用形態上の地位も低く	
145	1	割合が低い	割合が低かったが	
146	1	女性売春の風景		The landscape of female prostitution
147	6	ある種の対話形態	ある種の言説の態様	a certain mode of discourse
148	13	安全な	完全な	complete
149	15	ゲイ自己確認のための空間的基盤		The spatial basis of gay identity
	16	社会差別	社会的セグリゲーション	social segregation
152	3	ゲイ自己確認の社会構造	ゲイというアイデンティティの社会的構築	the social construction of gay identity
153	2	マニュエル・カステルズは、都市社会運動に関する記念碑的労作、『都市と農村地帯』(一九八三年)に、	マニュエル・カステルズは、都市社会運動に関する記念碑的労作、『都市とグラスルーツ』(一九八三年)	通例:「カステルズ」→「カステル」、邦訳(吉原他訳,法政大学出版局,1997.)
155	15	第六号提案のような・・・	第六号法案のような・・・	
6章 人種差別の言語 Languages of racism				
163	5	「人種」の社会構成	「人種」の社会的構築	The social construction of 'race'
	10	言語定義	言語についての定義	
164	8	それと同時に家父長制と資本主義、	それは同時に、家父長制や資本主義への関わりも含むことになり、	
165	2	本章では、【訳文抜け】人種観と人種差別用語の	本章では、近年のイギリスの歴史から、人種観と人種差別用語の	This chapter suggests that...in recent British history.
	3	言語的・社会的状況において	言語的状況だけでなく、社会的状況においても	
166		イギリスにおける人種差別のルーツ		The roots of British racism
171	1	気候風土の影響が	気候の影響が	
	1	また主食の故もあつて	また、その気候下での典型的な食物の故もあつて	
171	8	「人種」像		Representing 'race'
	13	ロンドン運輸と保健省	ロンドン交通局とナショナル・ヘルス・サービス	London Transport and National Health Service
173	13	語彙を仰々しい表現	語彙や修辭的表現	
175	7	暴動の報道		Reporting the Riots

頁 行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
176 1	しかし、…明らかにしているように、【訳文抜け】新聞は	しかし、…明らかにしているように、これらの出来事に対するさらに巧妙なステレオタイプが存在する(バージェス, 1985)。【改行】実際、バージェスが言うように、新聞は	But there was... (Burgess 1985).【改行】Burgess suggests, in fact, that... →バージェス, 1985 (邦訳『メディア空間文化論』竹内監訳, 古今書院, 1992)
176 8	街の文化、という類似的な見方である。	ストリートカルチャー(街路文化)に対するステレオタイプ化された見方	and a stereotypical view of street culture
178 1	「アジア系」の民族性という神話		The myth of 'Asian' ethnicity
180 18	『オリエント学』(一九七八年)	『オリエンタリズム』(一九七八年)	Edward Said's penetrating analysis of <i>Orientalism</i> (1978). (邦訳, 今沢訳, 平凡社, 1986)
181 1	オリエント像		Imagining the Orient
7	ロード・クロマー	クロマー脚	
182 9	「オリエント学」	「オリエンタリズム」	'Orientalism' (類例多数)
13	ダーウィン説	ダーウィニズム	
17	「想像上の地理学」	「心象地理」	'imaginative geography'
184 15	結び		Conclusion
185 17	文化論としての	文化的言説としての	as a cultural discourse
8	これは	問題は	
186 12	民族性	エスニシティ	ethnicity (類例多数)
7章 言語の政治力学 The politics of language			
188 2	文化地理学と言語理論		Cultural geography and linguistic theory
5	他の全ての	多くの	
11	血縁関係とか結婚など	親族関係や婚姻など	
12	人間ははっきりと分岐させた	人間に明確に認識させた	
189 7	言語形式	言語形成	
8	文化の自己確認	文化的自己確認	
15	そのかわり本章では、記号と象徴の研究として狭義に定義されている記号論の他に、他の分野の社会言語学発達に中心をおいている。	記号論, つまり記号とシンボルの研究と狭義に定義される学問のかわりに, 社会言語学における他の発展している分野に重きを置くことにする。	
17	文章分析	言説分析	the analysis of discourse
190 4	作図的表現に必要とされる	地図的表現が必要とされる	
10	言語の問題性		The problematic character of language
11	レイモンド・ウィリアムズがキーワード(一九七六年)について論じているように	レイモンド・ウィリアムズの『キーワード辞典』という著書についての議論に示すとおり	邦訳『完訳キーワード辞典』, 椎名他訳, 平凡社, 2002.
17	「個々の」	「個人の」	
191 図16	図16 相互関係理論	図16 構造化理論	The theory of structuration (ギデンス『社会理論の最前線』, 友枝他訳, ハーベスト社, 1989, P.88参照)
191 9	言語例を個々の相互関係プロセスの一例としてしている最近のアンソニー・ギデンスの社会理論によって	言語の事例を, 構造化のプロセスの描写であると最近のアンソニー・ギデンスの社会理論によって	
11	構造的特性	構造化の特性	
	積極的に再生し	生み出され	
15	実践していく	能動的に再生産する	
19	「是認」の仕組みが…課せられる。	ある行動が, 正規のものとされ社会的な力が付与されるような, 「是認」のシステムが提供されるのである。	
192 3	言語のバリエーションー方言, ピジン語, クオール語		Linguistic variation :dialects, pidgins and creoles
14	範囲	範囲がどれだけか(どの程度までか)	
195 17	方言が言語の主流にはいつていくにせよ	方言とされる単語が, 主流の言語のなかに取り入れられていくにせよ	
195 20	ヘクターのモデル	ヘクター (Hechter) による内なる植民地化モデル	
196 3	ダンカン(一九八八年)	ダンカンとダンカン(一九八八年)	
6	風景	景観	

文化地理学の再構築

頁 行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
196 8	言語共同社会	言語共同体	Linguistic communities
11	主観相互の間で	間主観的な	intersubjective
12	言語共同社会でコミュニケーションが行われる時、そこに、共通の言語・信仰体系・神話・イデオロギーを共有するという特徴を持つ。	コミュニケーションは、言語共同体内でとりおこなわれるが、この言語共同体は、言語だけでなく共通の信仰体系や神話、イデオロギーを共有するところに特徴がある。	
16	相互関係に関するギデンス理論	ギデンスの構造化理論	
197	それ	実在する力関係	
6	過激な言語世界を展開しており、その中で現実には特徴的なイデオムとして「暗号化」されている、と言う。	その中で現実性が特徴的なイデオムとして「暗号化」されている根源的な言語の世界を表現している、と言う。	
199 14	言語共同社会	言語共同体	類例多数
14	ミハイル・バクティン	ミハイル・バフチン	類例多数
200 8	バクティン	バフチン	
12	音楽家・ディスクジョッキー・社会学者としてユニークな立場から	音楽家でありディスクジョッキーであり社会学者でもあるというユニークな立場から	
204 5	「発見」についての言説		The discourse of 'discovery'
205 1	ビクトリア入植	ビクトリア州への入植	
8	原住民	アボリジニーたち	類例多数
14	さらにまた別の名称を与える	あるいは既存の地名を別の地名にかえる	renaming
206 16	地理空間的言説	空間的言説	a spatial discourse
8章 文化地理学の課題 An agenda for cultural geography			
209 3	文化研究から始まり	カルチュラル・スタディーズの立場から	
4	縄張り表現	領域的表現	
7	理論	論争	
210 1	文化と解釈		Culture and interpretation
211 14	社会学者	社会学者	
212 7	構造的抑制	構造的拘束	
14	羊たちの襲撃と革命ー文化、政治、社会		Sheep raids and revolutions
15	「濃厚な描写」としての民族誌学に関する	「分厚い記述」としての民族誌に関する	culture, politics and society on ethnography as 'thick description'
213 3	というよりは	ではなく	
6	「著述文化」(Clifford & Marcus 1986)	「文化を書く」(Clifford & Marcus 1986)	'writing culture' 邦訳『文化を書く』春日他訳, 紀伊国屋書店, 1996.
214 5	象徴の仕組みの構成と、型態の処理	象徴体系の構造と構成	
215	文学と政治ーポスト・モダニズムのジレンマ	詩学と政治ーポスト・モダニズムのジレンマ	Poetics and politics: the dilemmas of post-modernism
7	様式主義	歴史主義	historicism
216 2	地理学論述	地理学的記述	
217 4	文化と景観		Cultures and landscapes
9	最近に	最初に	
10	最初の一例	最近の一例	
13	「景観の絵画表現」	「景観の図像学」	'the iconography of landscape' ... (Cosgrove & Daniels 1988) (邦訳『風景の図像学』千田・内田監訳, 地人書房, 2001)
218 20	一八六〇年に	オーストリアで一八六〇年に	
219 13	ブレンドして	混合させて	
14	力こそ、	力について	
15	都市開発委員会	都市拡張委員会	City Expansion Committee
16	都市開発資金	都市拡張基金	City Expansion Fund
219 17	示す他に	示したことは別に	
220 8	象徴としての景観	象徴的景観	
220 12	現代文化研究	現代のカルチュラル・スタディーズ	類例多数
17	文化……		Culture……
221 2	競い合い	形づくられ	

頁 行	徳久・吉富訳	訂 正	備 考
221 4	定義を	定義が	
5	「文化のお荷物」	「文化の中身」	‘cultural baggage’
7	文化論	文化主義	culturalism
8	見える	可視的な	
8	人工的遺物	建造物	
9	大家の	大衆の	誤植
10	文化理論の最近の展開のなかで充分な注目を浴びているとは言えない。	文化理論の最近の展開に充分注意を払っているとは言えない。	
20	スリフト自身の言う…別として	スリフト自身がほめかすように、これが「階級文化」の概念を認めるか否かは別として	
222 8	環境	状況	circumstance
10	悲還元…	非還元…	誤植
223 1	……そして地理学		…and geography
3	社会構成	社会的構築	a social construction
4	「人間環境」	「人間と環境との関係」	‘man-environment’ traditions
12	次に	もう一つは	
13	非産業化と…戦争に至る	ジェントリフィケーションや反・都市化、非産業化や地域の衰退、そして帝国主義、地政学、戦争に至るまでの(永続的矛盾)	
15	文化地理学の研究方法	文化の地理学的研究方法	
17	人間の行動範囲	人間行動の展望	
224 3	中流階級化に関する研究	ジェントリフィケーションに関する研究	
5	「野生の土地」	「野生化」	
5	中流化	ジェントリフィケーション	前出
13	南北像	南・北のイメージ	
225 2	文化地理・経済地理に関して、	経済地理学のことはだけでなく、文化地理学のことも、	
4	『労働の空間区分』(一九八四年)でマッセイは、	『空間的分業』(一九八四年)でマッシーは、	<i>Spatial divisions of Labour</i> (1984) (邦訳、富樫・松橋監訳、古今書院、2000.) 前後に類例多数
9	地域研究	ロカリティー研究	locality studies
9	特定の地域が	特定の場所が	particular places
226 1	地域研究	ロカリティー研究	locality studies
16	ある種の社会学者の	ある種の社会学者や経済学者の	some sociologists and economists【訳文抜け】
20	マッセイの用いる地理学的の比喩の一つを使えば、	マッシーの用いる地質学的の比喩の一つを使えば、	geological
227 3	文化研究	カルチュラル・スタディーズ	
9	「地域の差異」	「地域分化」	‘areal differentiation’
20	「場の感覚」	「場所の感覚」	‘sense of place’
228 1	文化の社会的・政治的構造に重点を置く	文化を社会的、政治的構築物と考える	

な基準で選択されたのかも、全く断っていない。例えば原著の図1はC. O. サウアーの肖像写真⁶⁾であるが、これが省かれたのでは、訳書24頁の「ソウアーのもっとも記念すべきポートレートは彼のそのような特徴的なポーズを示しており、そえられたテキストも彼のそのような気分を引き立たせている」といった記述の意味が全く理解されない。第三に、原著巻末の「索引」が訳出され、しかもそれを「人名索引」と「事項索引」とに分けて掲載しているのは、読者の便を考えた好い工夫と評価できるが、訳語の適不適は今ほ措くとしても、原索引にある「エイズ」や「プリカラー

ジュ」といった重要語がなぜかこれも説明なしに省かれている。元の索引にはない「ゴーヴァン」(p. 92)などが追加されていることもその理由が示されておらず、恣意的としか言いようがない。せっかくの好工夫も実を結んでいないのである。第四に、人名や著作名の訳出の基準も明示されず、あるものはカタカナに直され、あるものは原文表記のままというように不統一である。第五に、原著巻末の「Bibliography」が訳書にも「参考文献」として載せてあるが、原版をそのまま用いているのみであり、すでに邦訳がなされているものがこの中に相当数含まれているにもかかわらず

ず、それらを指摘していない。「監訳者として少しでも原著者の言おうとしていることを正確に、また読みやすく伝えようとするれば、著者が引用または参照にしている文献に全部目を通さねばならず……どうしても入手できなかった二、三のものを除いてすべてのものにあたり、私としてはできるかぎりのことをした……」⁷⁾といった畏敬すべき良心的態度とは大きな隔たりがある。

IV おわりに

以上、われわれの結論は、本訳書はせつかくの好企画でありながら訳者に恵まれなかったということに尽きる。繰り返しになるが、われわれの意図は、画期的な原著の理解にいくらかでも資することができれば、というところにある。代替訳についてもこれが絶対ということもなく、われわれの誤解や誤りもなしとは言えまい。ご教示いただければ幸いである。

注記

- 1) 手塚 章 (1991): 地理学の古典, 古今書院, 422 p. および同 (1997): 続・地理学の古典—フンボルトの世界—, 古今書院, 378 p.
- 2) 筆者らの目にとまった次のようなものがある。(括弧内は筆者名。) Environmental Planning A, 22-5, 1990, pp.705-706. (G. Rose), Sociology, 24-3, 1990,

pp. 538-539, (Liz Bond), The Geographical Review, 80-4, 1990, pp. 446-448, (B. J. Godfrey), The Geographical Journal, 157-1, 1991, p.107, (JAD), Area, 23-1, 1991, pp. 98-99, (W. T. R. Pryce), The Professional Geographer, 43-2, 1991, pp.250-251, (R. B. Kent).

- 3) 松本博之 (2000): 学界展望 学史・方法論, 人文地理, 53(2), pp.241-242. なお同じ学界展望の「文化地理」の項においても、成瀬厚が「……『文化地理学の再構築』(玉川大学出版部)は訳語の一部に疑問が残るが、フィールドワーク中心の文化研究にとって良い教科書となろう」(p.251)と述べている。
- 4) わずかに「地理」(古今書院) 45(6), p.93に載った橋爪伸也の短い書評と、「歴史地理学」No. 206, 2001, pp.43-45の松尾容孝のかなり詳細な書評が目にとまっただけである。ただし、両評とも、翻訳上の問題には触れていない。
- 5) 前掲3) 松本 (2000), p.242.
- 6) Leighly, J. ed.(1963): Land & Life. A Selection from the Writings of Carl Ortwin Sauer.(Univ. of California Press). の冒頭にも掲げられた有名な写真と同じものである。なお、ジャクソンの原著ではこのLeighlyの書物の刊行年次を「1967年」と誤記している。
- 7) ロン・J・ジョンストン著, 竹内啓一監訳, 高田普久男訳 (2002): 場所をめぐる問題—人文地理学の再構築のために—, 古今書院, p.290 の「監訳者の覚え書き」における竹内の言 (p.vi).